

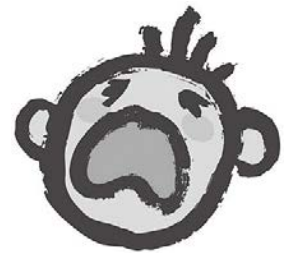


知って防ごう 子どもの事故

～死亡原因の上位は「不慮の事故」～

子どもは好奇心がいっぱいです。興味のあるものには何でも手を伸ばし、またどこにでも行こうとします。しかし、子ども(とくに乳幼児)は、何が危険で、何が安全なのかを自分では判断できません。そのため、不慮の事故がたびたび起こり、死因の多くを占めています。

厚生労働省の人口動態統計の死因順では、5～9歳で「不慮の事故」が第1位、1～4歳は第2位、0歳児では第4位となっています。



乳幼児の不慮の事故の多くは“窒息”“溺水”に集中

乳幼児の死因を詳しく見てみると、動きがおぼつかない0歳児のうち、身近なものを口に入れてしまう「誤飲による窒息」が多く、少しずつ行動範囲が広がる1歳児以上になると、まだ危険を認知する能力が低い「溺れる」事故が増えてきます。

■誤飲・窒息事故



6か月を過ぎる頃から、赤ちゃんは何でも口に入れたがります。まわりにあるものを触り、口に入れることで知覚を高めようとしているのです。危険と思われるものは、赤ちゃんの手の届かないように正しく管理しましょう。

❗ 家の中はこんなに危険 ❗

タバコの吸い殻 ジュースの缶を吸い殻入れにしない

薬 お菓子の缶には入れない

薬品・洗剤類 低い場所には置かない

化粧品 鏡台の前に出しっ放しにしない

ビニール袋や紙袋、ラップ 子どもの手の届くところに置かない

電気のコードやひも 電気コードは家具の上や裏を這わせる

食事 食べ物を口にするときには、ハイハイさせたり、遊ばせたりせずしっかり座って食べさせましょう



※乳児は寝かせるときも要注意※

寝具や寝かせ方によっては、窒息事故を起こすことがあります。とくに生後4か月頃までの赤ちゃんは自分で体を動かさない所以要注意です。

■水の事故

水に溺れる事故は、重症になる可能性の高い事故です。屋外だけでなく、家の中にも危険な場所がたくさんあります。乳児の溺れる事故の大部分は風呂場で起きています。



❗ 溺れる危険のある場所 ❗

《風呂場》

- 浴槽には水をためておかない
- 風呂場のドアにはカギを掛ける
- 洗い場に踏み台となるものを放置しない
- 入浴時は子どもから目を離さない
- 風呂場で遊ばせない

《洗濯機》

- 洗濯が終わったら洗濯機の水を抜いておく
- 洗濯機の周囲に踏み台となるものを置かない

《トイレ》

- 使用後は必ず便器にふたをする
- トイレのドアにカギをつける

いざというときのための心肺蘇生法

① 反応があるか確認
何らかの応答やしぐさが無い。

② 大声で周囲に助けを求め
119番通報とAEDの手配

③ 呼吸を確認する
胸と腹部の動きを見て、普段どおりの息があるかないかを見る。
正常な呼吸がない場合は…④へ。

④ ただちに心臓マッサージ(胸骨圧迫)を行う 強く!早く!絶え間なく!

- 乳児(1歳未満)の場合… 両乳頭部を結ぶ線の少し足側を目安とする、胸の真ん中を2本指で押します。2本指で押します。
- 小児の場合… みぞおちから指2本くらい上を手のひらの付け根で圧迫する。体格が大きければ、成人同様に両腕で行ってもよい。

【人工呼吸ができる場合は】
まずは、気道を確保する。
片手で額をおさえながら、もう一方の手で指先をあごの先端に当てて持ち上げます。



心臓マッサージ(胸骨圧迫) 30回
1分間に少なくとも100回のテンポ
※胸の厚みの約1/3沈む深さまで

人工呼吸2回
1回1秒かけて吹き込む

★これを交互に繰り返す→

⑤ AEDが到着したら…

電源をいれて(ふたを開けると電源が入る機種もあります)電極パッドを装着し、音声ガイドに従ってください。どなたでも簡単に扱えます。電気ショック後、音声に従ってただちに心臓マッサージ(④)を再開します。小児用パッドや小児用モードがある場合、未就学児には、小児用パッド・小児用モードを使用します。

お問い合わせ / 健康推進課 (☎63・3801)